

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	医療的ケア I		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	主担当 倉持有希子	背景			
授業形態	講義・演習	実務家教員 看護職10年			
受講ルール	共通ルール+実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社 介護福祉士養成課程・介護職等のための医療的ケア				
<b>授業概要</b> 1. 医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養)について、安全かつ適時・適切に行うための知識、技術を習得する学習とする。 2. 医療的ケアの安全な実施が、利用者の暮らしや人生を支える支援となるよう理解を深める。					
<b>狙いと到達目標</b> 1. 医療的ケアが介護福祉士に必要なとなった社会的背景を知る。 2. 医療の倫理、チーム医療について説明できる。 3. 清潔・不潔の概念を理解し、滅菌手袋の装着を確実に実行できる。 4. バイタルサインを測定できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 基本的な医療的ケアの技術の習得に生かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	生活支援としての医療的ケア	介護における医療的ケアの意義と目的			
2	介護の倫理と医療の倫理				
3	医療的ケア導入までの背景				
4	利用者や家族の気持ちの理解				
5	保健医療制度とチーム医療(1) 保健医療に関する制度、医行為に関する法律				
6	保健医療制度とチーム医療(2) チーム医療と介護職員の連携				
7	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施(1) リスクマネージメント				
8	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施(2) ヒヤリハット、アクシデントの報告				
9	救急蘇生				
10	清潔保持と感染予防(1) 感染予防、職員の感染予防、消毒方法				
11	清潔保持と感染予防(2) 演習 滅菌と消毒(消毒と滅菌) セッションの使い方、滅菌手袋とはめ方				
12	清潔保持と感染予防(3) 演習 療養環境の清潔 消毒液の作り方 その他実践的演習				
13	健康状態の把握 平常状態について 観察 急変状態について				
14	健康状態の把握 演習 観察・バイタルサイン				
15	科目認定試験				
評価方法	<input type="radio"/> レポート点 10% <input type="radio"/> 筆記試験 90% *筆記試験は100点満点で90点以下の場合、教育的再試験を実施する。				
自由記述 (メッセージ)	医療的ケアが介護福祉士に必要なとなった背景、基本的知識と技術を習得します。しっかりと取り組みましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	医療的ケアⅡ		必修	2年前期	15コマ30時間
担当教員	倉持有希子	背景	YMCA教員歴22年		
授業形態	講義・演習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール＋実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社 介護福祉士養成課程・介護職のための医療的ケア				
授業概要	<p>高齢者及び障害児・者の喀痰吸引について、医行為であることを踏まえて、安全・適切に実施できるよう、実施の根拠となる知識・技術を身につける。</p>				
狙いと到達目標	<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引を安全に実施するために必要な基本的な知識を理解する。</li> <li>・喀痰吸引を安全に手順通りに行うことができるよう映像・ミニ演習を通しい理解する。</li> </ul>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的な技術を安全に行うために経験を生かす。</li> </ul>				
授業計画・内容					
1	呼吸のしくみとはたらき				
2	正常な呼吸状態といつもと違う呼吸状態				
3	痰を出しやすくするケアと喀痰吸引				
4	人工呼吸療法とは 人工呼吸療法者の生活				
5	吸引により生じる危険 対応と事前対策				
6	吸引に用いる器具・器材の取扱い方法				ミニ演習
7	喀痰吸引の演習チェックリストの理解				
8	口腔内吸引の手順・根拠・留意点				
9	口腔内吸引 吸引チューブの取り扱い				ミニ演習
10	鼻腔内吸引 鼻腔内への吸引チューブの挿入について				ミニ演習
11	気管カニューレ内部吸引の手順・根拠・留意点				
12	気管カニューレ内部吸引 滅菌吸引チューブの取扱い				ミニ演習
13	吸引に関連した呼吸器系の感染と予防				
14	子供の吸引 家族への対応				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験において90点以下は教育的再試験				
自由記述 (メッセージ)	医療的ケアⅣ喀痰吸引の演習につながるように学習してください。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	医療的ケアⅢ		必修	2年後期	15コマ30時間
担当教員	倉持有希子	背景	YMCA教員歴22年		
授業形態	講義・演習	務家教員である			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社 介護福祉士養成課程・介護職のための医療的ケア				
<b>授業概要</b> 高齢者および障害児・者への経管栄養について、医行為であることを踏まえて、安全・適切に実施できるよう、実施の根拠となる知識・技術を身につける。					
<b>狙いと到達目標</b> 1. ところとからだ、障害の理解、生活支援技術で学んだ基本知識をもとに経管栄養の技術を身に付ける。 2. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論と実施手順について基本的知識を習得する。 3. 基本的知識と技術が結びつくよう、映像、ミニ演習を通して理解する。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> ・医療的な技術を安全に行うために経験を生かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	消化器系のしくみとはたらき、自立に向けた食事の介護を復習する				
2	経管栄養とは 経管栄養の必要な状態、種類				
3	経管栄養の技術と留意点① DVDを視聴して全体の流れをイメージする				
4	経鼻経管栄養の技術と留意点② チェックリストを通して根拠と方法を学ぶ				
5	経鼻経管栄養ミニ演習① ～経管栄養の技術と留意点について実際に必要物品に触れながら理解する～				
6	経鼻経管栄養ミニ演習② ～経管栄養の技術と留意点について実際に必要物品に触れながら理解する～				
7	子どもの経管栄養とは				
8	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意				
9	半固形栄養について				
10	胃ろう・栄養の技術と留意点:チェックリスト、 DVDを通して方法と根拠を学ぶ				
11	胃ろう・腸ろう演習① ～経管栄養の技術と留意点について実際に必要物品に触れながら理解する～				
12	胃ろう・腸ろう演習② ～経管栄養の技術と留意点について実際に必要物品に触れながら理解する～				
13	急変・事故発生時の対応と事前対策① 講義、グループワーク				
14	急変・事故発生時の対応と事前対策② グループ発表				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験において90点以下は教育的再試験				
自由記述 (メッセージ)	医療的ケアⅣ喀痰吸引の演習につながるように学習してください。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	医療的ケアⅣ		必修	2年後期	30コマ・60時間
担当教員	主担当 倉持有希子	背景			
授業形態	演習	実務家教員 医療的ケア教員講習受講者、看護師			
受講ルール	共通ルール+実習者ルール				
受講条件	医療的ケアⅠ～Ⅲが修了している者				
教科書等	建帛社 介護福祉士養成課程・介護職等のための医療的ケア				
授業概要	<p>・口腔吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内部吸引、経鼻経管栄養、胃ろう・腸ろう栄養について、根拠に基づいた安全な方法で実施することができる。</p>				
狙いと到達目標	<p>①口腔内吸引②鼻腔内吸引③気管カニューレ内部吸引④経鼻経管栄養⑤胃ろう・腸ろう栄養のそれぞれについて、チェックリストの通りに実施できる。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>基本的な医療的ケアの技術の習得に生かす。</p>				
授業計画・内容					
1 経鼻経管栄養①			16 口腔内吸引④		
2 経鼻経管栄養②			17 口腔内吸引⑤		
3 経鼻経管栄養③			18 口腔内吸引⑥		
4 経鼻経管栄養④			19 鼻腔内吸引①		
5 経鼻経管栄養⑤			20 鼻腔内吸引②		
6 経鼻経管栄養⑥			21 鼻腔内吸引③		
7 胃ろう・腸ろう①			22 鼻腔内吸引④		
8 胃ろう・腸ろう②			23 鼻腔内吸引⑤		
9 胃ろう・腸ろう③			24 鼻腔内吸引⑥		
10 胃ろう・腸ろう④			25 気管カニューレ内部吸引①		
11 胃ろう・腸ろう⑤			26 気管カニューレ内部吸引②		
12 胃ろう・腸ろう⑥			27 気管カニューレ内部吸引③		
13 口腔内吸引①			28 気管カニューレ内部吸引④		
14 口腔内吸引②			29 気管カニューレ内部吸引⑤		
15 口腔内吸引③			30 気管カニューレ内部吸引⑥		
評価方法	5回目にテストを行いきななかった場合はできるまで行う。				
自由記述 (メッセージ)	今までの授業をもとに、根拠に基づいた基本的な医療的ケアの技術がしっかりできるようにしましょう。				